

5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ＆コンサルティング（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	商店街（代表者）	・北京オリンピックの開幕に向けて、デジタルテレビの販売が伸びる。また、省エネエアコンへの買換えが進み、単価上昇につながる。
		スーパー（経営者）	・販売停止していた地元銘菓の販売再開が予定されているため、来客数は増加する。
		乗用車販売店（従業員）	・新規客が増えていることに加えて、企業からの問い合わせも増えている。ただし、ある程度の受注は見込めても、前年同月の販売台数を維持するのは困難である。
		テーマパーク（職員）	・スノーボードの国際大会の開催により、当地域の認知度が高まっている。雪の状態も比較的安定しているため、これまで以上の集客が見込まれる。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔室内装飾業〕（経営者）	・見積依頼などの引き合いはある程度あり、来月以降は現場も動き出す。
	変わらない	商店街（代表者）	・購買意欲は若干見られるものの、客単価が変わらないため、売上の増加にはつながらない。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・消費者の財布のひもは更に厳しくなっており、取引先の飲食店の利用回数は、引き続き少なくなる。
		百貨店（企画担当）	・主力の婦人服は、冬物のみならず、今後数か月間の主力となる春物の動きも鈍い。そのため、今後の売上也引き続き厳しい。
		スーパー（店員）	・年末商戦が終わるが、年明けからの売上は前年同月比95%ほどで推移している。前年同月比92～95%が毎年続いており、売上は年々縮小している。これからも良くなる要素は一つ見当たらず、状況は変わらない。
		コンビニ（企画担当）	・原油の需要期は過ぎるため、原油価格の高騰を背景にした食料品価格の上昇もある程度収まる。ただし、ガソリンへの支出は抑えられる。
		コンビニ（エリア担当）	・売上、客単価の前年割れは、今後も継続する。
		衣料品専門店（経営者）	・当店は富裕層の客が中心であるが、これだけ諸物価が上昇すると、来店を控えることが増える。
		衣料品専門店（企画担当）	・原油価格の高騰を背景にインフレ傾向が強まる中、消費者は引き続き、衣料品への支出を抑える。
		衣料品専門店（売場担当）	・米国のサブプライムローン問題と原油高が原因となり、消費者の購買意欲はまだまだ向上しない。
		乗用車販売店（経営者）	・ガソリン価格が値下がりすれば良くなるが、値下がる見込みはない。ただし、暫定税率が廃止されれば、その分のお金がこちらに回ってくる。
		乗用車販売店（経営者）	・新型車効果は、あと2、3か月は持続する。またガソリン価格の高騰の影響で、軽自動車への関心も高まる。
		乗用車販売店（従業員）	・引き合いはそれなりにあるため、前年並みは確保できそうである。ただし、法人需要が少なく、買い控えがある。個人客の需要があるのは有り難いが、決算時期の法人需要が少ないのは痛手である。
		その他小売〔水産物卸売〕（経理担当）	・長期低迷状態からなかなか抜け出せず、この状態はまだしばらく続く。
		都市型ホテル（従業員）	・予約件数の推移は、これまでとあまり変わらない。
		旅行代理店（経営者）	・原油価格の高騰を背景とした飛行機の燃油サーチャージの値上げにより、特に若年層の海外旅行客数は伸び悩む。
旅行代理店（従業員）	・飛行機の燃油サーチャージが毎月値上げされることに加えて、貸切バスの料金も値上げされる。今後、旅行を控える客の増加や企業利益の減少が心配される。		
通信会社（サービス担当）	・ゲーム機によるインターネット利用者が増えており、新規契約者数の増加が見込まれる。しかし、工事費無料や長期割引を目標に契約した客の中には、キャンペーン終了後に他社に移る人も多く、解約者数も増える。		
ゴルフ場（経営者）	・来客数は増加するが、単価は低下する。その一方で、諸経費が徐々にかさみ始めており、見通しは明るくない。		
ゴルフ場（企画担当）	・予約人数は、2、3か月先まで順調に入っている。天候さえ悪くならなければ、目標を達成できる。しかし、景気が良くなるほどではない。		

	設計事務所（経営者）	・鉄鋼関連等の企業案件は安定している。しかし、個人住宅は低迷したまま推移する。
	住宅販売会社（従業員）	・金利水準に変化はなさそうであり、今後も特に変わらない。
やや悪くなる	一般小売店〔薬局〕（経営者）	・地元の地場産業では、重油価格の値上がりにより、仕事をすればするほど赤字が増える状況にある。この2、3か月で、不況倒産する会社が増えることが懸念される。
	一般小売店〔酒類〕（経営者）	・今後、ビールや焼酎が相次いで値上げされる。日用品の値上がり予定もある。政府の打つ手もないため、消費者の買い控えは、今後も続く。
	百貨店（売場主任）	・ガソリン価格の高騰に伴い、靴の価格もかなり上昇する。今後、新しい靴を買う客が少なくなる。
	百貨店（企画担当）	・消費意欲は低下しており、買い控えが続く。
	百貨店（外商担当）	・株価や石油関連商品の価格の推移によっては、消費者の余裕は更に失われていく。そのため、商品の動きや販売量、単価も良くならない。
	百貨店（販売担当）	・諸物価の上昇や地金価格の高騰を背景に、貴金属の買い控えが進む。また、商品値上げ前の駆け込み需要は見込めるものの、その後の需要は大幅に落ち込む。
	百貨店（販売担当）	・春物への買い換えが進む時期であるが、初売り以上の売上を計上することはかなり難しい。
	百貨店（婦人服販売担当）	・ガソリン価格の高騰や食料品などの値上げ、相次ぐ食料品の偽装問題などで、消費者の購買意欲は著しく低下している。当分の間、買い控えが続く。
	スーパー（経営者）	・個人所得が増えていないため、消費者は家計を維持するのに精一杯であり、節約志向は続く。良くなる要素はない。
	スーパー（店長）	・原油価格の高騰に伴い、商品値上げはこの先もまだまだ続く。
	スーパー（営業担当）	・商品値上げは、今後も続く。庶民の生活は厳しくなり、一層の節約を強いられる。
	スーパー（仕入担当）	・食料品は多少値上げしても影響は小さいが、衣料品への影響は大きい。消費者は価格に対して神経質になってきており、今後の価格の設定次第では、利益の減少が見込まれる。
	スーパー（販売担当）	・近隣に大型店が開店する予定であるため、そちらに客が流れる。
	コンビニ（エリア担当）	・小麦粉など原材料の価格高騰が商品値上げにつながるため、今後は買い控えが出てくる。
	コンビニ（商品開発担当）	・ガソリン価格の高止まりに加えて、食料品や生活必需品の値上げも相次ぐため、消費が拡大することは考えられない。
	衣料品専門店（販売企画担当）	・売行きが鈍くなってきている。先々の商品の動きも悪くなっている。
	家電量販店（店員）	・諸物価が上昇するため、購買意欲は全体的に冷え込む。
	一般レストラン（スタッフ）	・客の様子を見ると、物価高がじわじわと効いている。この先も、景気は悪い方へと向かう。
	スナック（経営者）	・例年ならば歓送迎会の季節で街の人通りも増えるが、最近では株安や物価上昇など暗い話題が多いため、客の財布のひもはますます固くなる。
	観光型ホテル（経営者）	・3～5月の予約状況は、東京方面からの客が主力である宿泊部門はますますである。しかし、地元客の多い昼食、夕食は、前年同月比でそれぞれ70%、65%と悪くなっている。
	都市型ホテル（支配人）	・今後、飲食料品やその他の原材料の値上げは避けられないが、少しでも宿泊料を上げると途端に予約が入らなくなるため、厳しい状況となる。
	都市型ホテル（営業担当）	・諸物価の高騰は今後も続くため、その影響が出てくる。
	旅行代理店（経営者）	・今年は夏にオリンピックが開催されるため、テレビ観戦のため夏休みの旅行を控えることが見込まれる。そのため、夏場に向けて個人客の予約が減少する。
旅行代理店（経営者）	・株価の低迷に伴う影響が出てくることに加えて、学生旅行の件数が横ばいとなり、単価も低下する。	
旅行代理店（従業員）	・航空各社では4月以降の運賃値上げが予定されているため、飛行機を使った旅行客数は減少する。	
タクシー運転手	・運賃値上げの影響が徐々に出てくるため、タクシー利用客数は減少する。	
タクシー運転手	・原油高による影響は今後も続くとともに、電気、ガスの公共料金の値上げも予定されているため、節約志向が更に強まる。	
通信会社（開発担当）	・業務量の縮小に伴い、これからパート従業員を50%程度減らすことが決まっている。	

	テーマパーク（職員）	・今夏に高速道路が開通するため、通過されたり日帰り客が増えたりする可能性がある。
	テーマパーク（総務担当）	・入場者数の前年割れや客単価の低下が続く一方で、ガスなどの燃料費が増えるため、経営は厳しくなっていく。
	美顔美容室（経営者）	・ガソリンを始め諸物価の高騰が続くため、エステのようなぜいたくは控えられる。
	住宅販売会社（従業員）	・建築確認に掛かる時間の長期化は今後も続き、短期間で済む中小型物件中心の状況が続くため、売上の伸びは望めない。
	住宅販売会社（企画担当）	・建築確認の結果がなかなか出ず、建築原価も上昇しているため、客の様子見は今後も続く。
悪くなる	商店街（代表者）	・ガソリン価格の高騰や、食料品を始めとする安価な中国製品の買い控えに伴う支出の増加により、景気は悪くなる。
	百貨店（販売担当）	・食料品やガソリン、灯油の価格高騰の影響により、家計消費は引き締められる。必需品ではないファッションものは、特に影響が大きい。春の新作が発売されても、今の寒さを乗り切る方が先決であるため、買い控えが続く。
	スーパー（店長）	・食料品の値上がりは今後も続き、消費者の節約志向は一層高まる。また、企業側も原価上昇によって利益が減少するため、経営が圧迫される。
	コンビニ（店長）	・燃料価格の高騰に伴い、取扱商品の値上げが本格的に始まる。また、電気、ガス料金も値上げされるため、経費が増加する。
	コンビニ（経営者）	・ビール、焼酎と値上げが続くが、給料は増える気配がない。この分では、個人消費はますます冷え込む。
	家電量販店（店員）	・原油高を背景に、諸方面でコストが増加しており、我慢比べが今後も続く。
	その他専門店〔貴金属〕（店長）	・仕入価格の高騰分を商品に転嫁できずにいる一方で、単価も低下している。今後も厳しい経営状態が続く。
	高級レストラン（スタッフ）	・多くの店舗で、業績は前年より悪化している。景気が良くなる兆候は全くない。
	一般レストラン（経営者）	・諸物価が値上がりし、当店にも主力の生ビールを値上げするという通達がある。今後良くなる材料がない。
	都市型ホテル（経営者）	・原油価格の高騰に加えて、諸物価の値上がりや米国のサブプライムローン問題もあり、客の動きは鈍くなる。
	パチンコ店（経営者）	・監督官庁の規制強化と遊技人口の減少により、今後一段と厳しくなる。
	住宅販売会社（経営者）	・売行きの良い地域と悪い地域の差がはっきりしているが、良い地域でも今後は販売競争が激しくなる。
	住宅販売会社（従業員）	・建築基準法の改正に伴う影響よりも、先行き不安による住宅市場の冷え込みの方が大きく、回復の兆しは見られない。
企業動向関連	良くなる	
	やや良くなる	輸送用機械器具製造業（統括）
変わらない	紙加工品〔段ボール〕製造業（経営者）	・主要取引先の販売量の伸びを期待できない。特に自動車関連の国内販売は停滞が続く。海外販売も伸び悩む。
	パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	・例年並みの受注量、販売量を見込んでいる。
	印刷業（営業担当）	・景気が良くなる要素は、今のところ見られない。変わらないか、場合によってはやや悪くなる。
	化学工業（総務担当）	・半導体関連の受注は増えるが、全体としてはあまり変わらない。
	窯業・土石製品製造業（社員）	・原材料や燃料価格の値上げが続き、現在の価格の維持は難しくなっている。取引先に値上げを提示する場合、他社へ注文が流れる可能性が高く、値上げ分は受注減によって相殺される。
	一般機械器具製造業（販売担当）	・アジア、欧州では活発な引き合いや受注があるが、米国市場の落ち込みを補うほどではない。また原材料や運送費の大幅な値上がりのため、他社との価格競争が厳しく、なかなか成約に至らないケースが今後も増える。
	電気機械器具製造業（経営者）	・新興国の需要に支えられて、電子業界は底堅い。しかし、海外メーカーや商社の価格競争に巻き込まれているため、品質や利益の確保には苦慮しており、今後の売上也横ばいである。
	輸送業（経営者）	・軽油価格の高止まり、建築確認申請の許可の遅れ、株安傾向に今後も大きな変化はなく、今の状態が続く。

		輸送業（従業員）	・物流業界では、燃料価格の高止まりを背景に、引き続き厳しい状況が続く。その一方で、石油製品を始め原材料価格が軒並み値上げされ、経営が厳しくなっていることを背景に、荷主からは値下げ要請があり、その対応には今後も苦慮する。
		広告代理店・新聞販売店〔広告〕	・2、3か月先までの広告出稿量は、例年並みである。
		会計事務所（社会保険労務士）	・建築基準法の改正に伴う混乱を脱して、建設関連の仕事が出てくるのは、かなり先の話である。その一方で、ガソリン価格の高止まりを背景に、経費を節減する顧問先企業は多く、今後も停滞する。
やや悪くなる		食料品製造業（企画担当）	・原油高を背景に食品業界では製品値上げが始まっているが、値上げすると需要は減少するため、景気は低迷する。
		化学工業（企画担当）	・燃料費の高騰を、価格に転嫁できない状況が発生する。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・今後、諸経費の負担増の影響が出てくる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・原油価格の高騰を背景に副資材の価格が上昇する中、販売価格に転嫁が出来ないばかりか、取引先からは値下げ要求すら出ている。4月以降の原材料の再値上げも通知されており、仕事の受注にも影響が出てくる。
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・原材料である鋼材や鉄の価格が、春から夏にかけて更に大幅値上げされることが予想される。しかし、販売価格に転嫁出来ない可能性があるため、景気は悪くなる。
		輸送業（エリア担当）	・年頭に主要荷主にあいさつ回りをしたが、今年の見通しは悪いと話す企業が8割ほどあった。受注量が減少している荷主も多いため、今後の荷物量は減少する。
		金融業（企画担当）	・業績堅調な企業が多いものの、原油を始めとする原材料費が増加しているため、今後への影響が懸念される。
悪くなる		窯業・土石製品製造業（経営者）	・建築基準法改正後の混乱に伴う建築着工件数の減少を背景に、今後はタイル、食器、衛生陶器など住宅関連製品の大幅な受注減が見込まれる。
		金属製品製造業（経営者）	・4月以降の案件に対する引き合い件数が、大きく減少している。
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	人材派遣会社（経営企画）	・取引先企業の開発案件数や研究開発費の減少は、今後も特に見込まれない。
		人材派遣会社（営業担当）	・堅調な業績を上げる企業が多いため、今後も業務量の大きな落ち込みはない。
		職業安定所（職員）	・原油価格の高騰に加えて、米国のサブプライムローン問題などの不安定要因もあるため、雇用を控える状況が今後も続く。
やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・派遣需要は横ばいであるが、客が要求する人材の確保が難しいことに加えて、新規の登録者数も減少しているため、成約の伸びは見込めない。	
	アウトソーシング企業（エリア担当）	・自動車製造業を除くほぼ全業種で、採用者数は減少する。	
悪くなる			